



「旅に出ればいい」とアドバイスをもらい、2018年4月にギターで弾き語りしながら自転車日本一周する旅に出ました。自

分の歌が売れないと生きていけない環境で音楽と向き合うために、お金を持たずに出発。路上ライブで生活費を稼ぎ、さまざまな街を転々とする生活を1年間続け、400カ所以上で歌いました。行く先々で出会った人に助けられ、人の温かさや音楽の可能性に改めて気がつきました。2020年に誘いを受けて安曇野でライブをした際、人や自然の豊かさにひかれ、そのまま移住しました。



▲嶋田湧 Instagram
▲餃子NERU Instagram

人と人が出合うことでお互いに視野を広げることができる。そこに音楽があることで言葉では語れないことができる。だからこれからもいろんな人と会って視野を広げ、相手にとっても広がるきっかけになれば嬉しいです。



餃子で胃袋をつかみ 歌で心をつかむ

体の内側から表現し
ありたい自分でいつづけるアーティスト

嶋田 湧さん (三郷)

「ギョウザミュージシャン」と名乗り、手作りの餃子を携えながらミュージシャンとして各地でライブを行う嶋田さん。音楽と餃子という異色の組み合わせで注目を集める嶋田さんにこれまでの道のりや思いを聞きました。

音楽と向き合い日本一周

音楽好きの父のもと、常に音楽が流れる環境で育ち、大学ではバンドに打ち込みました。音楽の道を諦めて就職した飲食系企業で、熱意を持って全力で仕事に向き合う経営陣を見ているうちに、「自分も人生をかけてやりたいと思うことをしたい。音楽をやりたい」という気持ちを抱くようになり退職。音楽と両立するつもりで餃子店の立ち上げに関わったところ、餃子の奥深さに魅せられ、おいしさの追求にのめり込みました。やりがいを感じつつも「音楽をやりたいかつたはず」と悩んでいたところ、バイト仲間「旅に出ればいい」とアドバイスをもらい、2018年4月にギターで弾き語りしながら自転車日本一周する旅に出ました。自

餃子と歌で表現し続ける

現在の活動の中心はミュージシャン活動と餃子の製造販売、音楽教室「ワクラボ」です。旅の中で餃子をふるまえばうれた経験から、2019年に「手づくり餃子NERU」をオープンし、イベントやネット餃子を販売しています。そして安曇野を拠点に各地でライブを行いながら、音楽で魂や心に、餃子で胃袋や身体に訴えかけ、自分を表現し続けています。

MEMO
〇手づくり餃子NERU
信州小麦・味噌・醤油や安曇野の天然水、地元の野菜で作る、皮から手作りの餃子を販売している。
〇WAKUWAKU MUSIC Lab.
(ワクラボ) 音楽やものづくりを通じてワクワクを追求する、形にとらわれない音楽教室。感性を育て、自分をすることを大事にしている。

ち、面白いことをやっている人が大勢いて、相乗効果で高めあっているところが魅力的。そんな安曇野が好きで、もっと地域に根付いていきたいと思っています。歌や餃子を提供できる場があれば喜んで行くので、ぜひ呼んでください。

春風に乗せて響く 早春賦のしらべ

4月29日 早春賦まつり



4年ぶりの開催となった第40回早春賦まつりが穂高川右岸の早春賦歌碑前で開かれました。本年は早春賦が発表されて110周年と作詞者の吉丸一昌の生誕150周年の節目。穂高地域の小学校や穂高文化協会コーラス部による合唱、アルバの演奏が披露され、最後は全員で「早春賦」を合唱。時代を超えて多くの人に歌い継がれる「早春賦」が春の安曇野に響き渡りました。実行委員長の中田光男さんは「早春賦の詩の心とメロディーを広く伝え、心と心、人と人との輪を広げてほしい」と願いを込め、穂高北小6年・湯本唯楓さん(12)は「緊張せず、楽しみながらしっかり歌えて気持ちよかったです」と笑顔で話してくれました。

地図とともに安曇野の魅力を巡る12時間

5月13日 安曇野12時間ロゲイニング

安曇野12時間ロゲイニングがビレッジ安曇野をスタート・フィニッシュ会場に開かれ、県内外から176人が参加しました。実行委員会では、今回初めて市内全域をフィールドに、制限時間を拡大し12時間で開催しました。チェックポイントには、光城山や長峰山などの里山や市内に点在する道祖神など43カ所が設定され、参加者はそれぞれ自分の体力に合わせたペースで得点を競っていました。東京都北区から混合チームで参加した鈴木智人さん(44)は「安曇野の心地よい水の音や景色を感じながら、自分のペースで12時間を楽しめた」と話してくれました。



田植えを心待ちに 初めの一步

5月12日 園庭ミニ田んぼ「浸種」



有明あおぞら認定こども園で2年目となる園庭ミニ田んぼの取り組みが始まり、米作り最初の工程・浸種(種もみを水に浸し、発芽を促す作業)を年長園児34人が体験しました。当日は、地域おこし協力隊や営農企画員がぬいぐるみやイラストを使って発芽の仕組みを分かりやすく説明しました。種もみと精米したお米をじっくり見比べた園児たちは、その違いを元気よく答えていました。杉浦一樺ちゃん(5)は「ふりかけごはんが好き、美味しいお米がとれるといいな」と話していました。